

# 国内の活動報告

第2回日比 NGO シンポジウムにむけて

2008年4月24～26日開催決定！

2006年11月にマニラで開催された「第1回日比 NGO シンポジウム」。当会からは山崎、相田、九島の3名が参加しました。たくさんのフィリピンの NGO スタッフと語り合えた、質、ボリュームとも大満足なシンポジウムでした。最後に「次は日本で開催しましょう」と約束したとおり、次回の開催日程が決定しました。会場は四谷の JICA 国際協力総合研修所をお借りできることになり、JICA や外務省からも後援をいただきました。

テーマは「ミレニアム開発目標に向けてのフィリピン貧困層のエンパワーメントー日比 NGO のパートナーシップ構築ー」です。貧困層へアプローチするとき日比の NGO が一緒になにができるか。分科会では、先住民族、子ども(教育・福祉)、子ども(ストリートチルドレン)、農村開発、平和構築の5つに分かれて、再び話し合いを深めていきます。主に英語でディスカッションがなされる3日間ですが、1日目にはアキノ元大統領の基調講演も予定されています。ご関心がある方はどなたでも参加できますので、事務局までお申し出下さい。

企業連携フォーラムに参加しました！

12月13日 JICA 国際協力総合研修所

「グローバル社会に求められる企業と NGO のパートナーシップとは」と題したフォーラムに参加しました。昨今は企業の社会的貢献(CSR)が求められています。当会はまだまだ企業と連携し、現地で事業を行うことは規模と現地の能力および会自体の能力の点から難しいと思われれます。しかし企業側がどう考えているのか知っておくのも勉強、と思い出席しました。

当日は4つの事例を紹介していただきました。①セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンと㈱INAX、②APEXと積水アクアシステム㈱、③シャンティ国際ボランティア会と㈱ニコン、④アジア・コミュニティ・センター21と㈱大和証券グループ、です。技術協力、資金協力、人材協力と、協力の仕方はいろいろです。しかし、どれも企業側担当者と NGO スタッフが本音で話し合っ作り上げた事業、という印象を受けました。それゆえその事業が本当に現地のためになることが望まれ、企業側はお金の使い方や進行状況に注文をつけるわけです。もちろん顧客のお金を使っているからには、顧客への説明責任もあります。自分の活動を振り返り、身が引き締まった1日でした。(九島)

## セミナー開催

ナプサさん、キャシーさん講演会 — ゆうちょう財団・国際ボランティアセンター助成 —

本年度は水道建設(P3)でボランティア貯金寄附配分(POSIVA)を受けたので、市民への報告会・講演会開催に助成をいただけることになりました。過去 POSIVA を受けて実施した事業は 1998 年のアトモロックの多目的住民組合育成から始まり、計 5 件です。その一つが、2002 年の PIHS との協働事業、三つの村における母子対象コミュニティスクール建設と巡回診療でした。



ミンダナオの地図とナプサさん

PIHS 代表のナプサさんが実姉アガさんの入院見舞いに来日されたのを機に、11月17日(土)に青葉区区民交流センターにて講演会を開催いたしました。姪のキャシーさん(がん専門クリニックスタッフ)からは現地の医療事情を話していただきました。ミンダナオのモロ民族が直面する厳しい政治的、経済的状況を、モロ 13 民族の一つサンギルに属するナプサさんが話されたことで、参加者はその言葉一つ一つに重みを感じられたようです。